

# 長岡あーかいぶ 第22号

編集・発行／長岡市歴史文書館

[https://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp/?page\\_id=134](https://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp/?page_id=134)

## 長岡市歴史文書館 開館から1年 市民に親しまれる施設を目指して



▲れきぶん講演会

最新の歴史研究の成果や史料保存の動向を紹介



▲常設展

古文書等の所蔵資料をケース展示



▲図書室

自治体史や専門書・研究雑誌を配架



▲情報コーナー

パンフレットや行事チラシを配布



▲企画展

長岡市域の歴史に関するテーマを設定



▲連携パネル展

歴史関連施設の活動などを紹介

令和5年(2023)7月1日、長岡市歴史文書館は開館しました。同日に施行された「長岡市歴史文書館条例」は、設置の目的を「歴史的資料として重要な公文書、古文書等(以下「歴史文書」という。)を収集し、及び保存し、市民共有の知的財産として後世に伝えるとともに、これらを広く一般の利用に供する」ためと定めています。

開館初年度は、この設置目的に則して、古文書解説講座、長岡市史双書を読む会に加えて、れきぶん講演会、常設展、企画展、連携パネル展といった新規事業を開催しました。その結果、閲覧・展示室、図書室、情報コーナーなどとあわせた入館者数は2,221人。前身施設である文書資料室の同時期と比較して約7倍になりました。調査・研究での来館が増えたこと、駐車場(86台)と講座室(2人掛けで約60席)を確保して利便性が向上したこと、ウイルス禍で開催を制限していた長岡市資料整理ボランティアや長岡郷土史研究会の活動が再開したことなど、複数の要因によってこの実績に結び付きました。

令和6年度は、初めて4月から通年開館し、開館1周年や中越大震災20周年にあわせた記念イベントを開催します。学校、コミュニティセンター、市内の歴史関連施設などとの連携も進めていきます。ふるさとのあゆみをひもとく施設としてリニューアルした歴史文書館へぜひお越しください。

長岡市史双書 No.62

『新型コロナウイルス感染症と史料保存』

長岡市歴史文書館の試み』

最新刊!

新型コロナウイルス感染症を取り上げた歴史資料集です。令和5年5月までの、「ながおか市政だより」をはじめとする長岡市の広報誌の記事や、市役所の各部署が発出した文書、記録写真などの関係資料を収録。ウイルス禍における市政と市民生活のすがたを伝え、長岡市の感染症への対応と対策を語り継ぐ取り組みを紹介します。

頒布価格 1,500 円  
B5 版・149 ページ

令和6年度も  
いろんな企画を  
ご用意して  
お待ちしております

# 令和5年度の歴史文書館

## 【古文書解説講座】

初心者向けの「古文書のいろは」は5・6月に、経験者向けの「古文書に見る長岡のすがた」は10・11月に、当館講座室にて開催しました。初めての自館開催であり、それぞれの定員も増やしましたが、それを上回るお申込みをいただきました。

「いろは」は全3回でのべ120名の参加があり、皆勤は32名でした。「すがた」は全4回でのべ198名の参加、皆勤は32名でした。

音響など施設設備の面でご指摘いただくこともありましたが、今後、改善していきたいと思っております。新年度もぜひご参加ください。



## 【長岡市史双書を読む会】

9月1日・15日に、当館講座室にて開催しました。テキストは、前年度に再版した長岡市史双書No.40『三島億二郎日記(4)―北海道拓殖の記―』(平成13年初版発行)です。

第1回は「三島億二郎日記」を読む―近代長岡の人びとの北海道移住―、第2回は「厳冬の野幌開拓地を護る」というテーマで、当館館長と、初版発行時の編集担当で長岡郷土史研究会会員の古田島吉輝氏よりそれぞれ解説がありました。全2回の講座に、当日申込みも含め、のべ85名の皆様よりご参加いただきました。



## 😊😊😊 長岡市資料整理ボランティア 😊😊😊

今年度は、移転作業のため6月まで活動を休止しました。再開を前に7月にメンバー会議を初めて開催、担当職員とボランティアメンバーとで活動の仕方について話し合いました。その後、9月に定例活動を再開し、12月までに月2回のペースで、計8回行いました。これまでとりやめていた新聞資料・古文書の両整理作業の同時開催や、向かい合っただけの作業などを復活させ、また活動最終日の打ち上げランチを4年ぶりに開催するなど、ほぼ感染拡大前の状態に戻して活動を行いました。

### 【新聞資料整理班】

全国紙から地方版と災害に関する記事を切り抜く作業を行いました。

のべ18名が参加し、3紙26か月分を整理しました。記事をまとめた製本新聞が5冊できる予定です。



### 【古文書整理班】

古志郡村松村金子家文書のクリーニングと目録をとる作業を行いました。

のべ76名が参加し、江戸時代の証文など約420点を整理しました。



『豊臣平和令と戦国社会』(東京大学出版会)、『戦国の作法～村の紛争解決』(平凡社)、『雑兵たちの戦場～中世の傭兵と奴隷狩り』(朝日新聞社)、『刀狩り武器を封印した民衆』(岩波書店)など数多くの著作があり、日本中世史の研究者として知られる藤木久志(ふじきひさし、立教大学名誉教授)は、長岡市の市史編さん事業に深く関わっていた。ここでは氏が携わった「中世の村」を探る地域調査の一端を取り上げ、フィールドワークを大切にしてきた姿勢、「村」や地域史へのこだわりなど、藤木史学の特色を紹介する。

**長岡市史との関わり** 新潟で生まれ育ち、新潟大学人文学部で学んだ藤木は、東京の大学に在職しながらも、生涯にわたって郷里の新潟への深い愛着を語り、地元研究者との親密な交流を続けた。

藤木が参画する『新潟県史』中世編の編集がほぼ終了した昭和61年(1986)、長岡出身の歴史家・伊東多三郎(1909～1984、東京大学名誉教授)との師弟関係もあって長岡市史編さんの発足に協力することになる。

中世史部会が組織された当時は藤木が部会長で、その後、資料編が刊行を開始する前年の平成3年(1991)からは編集委員会の参与となり、編さんが終了する平成7年まで市史全体の監修を担った。

**長岡市史での地域調査** 長岡市史の中世史部会では、藤木の率いる立教大学日本中世史研究会との合同による地域調査を企画した。藤木は「中世の文献史料に恵まれない地域で、中世の村の歴史に迫るには、いったいどうすればよいのだろうか」という課題を掲げ、「実地に方法を鍛えようとして」調査に臨んでいる。「何か特別な方法が用意できたわけでない。」「もっぱら小地名や村絵図や遺構、石仏石塔などの信仰遺物、村の年中行事や伝承、旧家や村組織など、中世に近づくための基礎となる様々な手がかりを、実地にできるだけ丹念に蒐集し総合」したものであった。

昭和63年、長岡市内の村松町を皮切りに地域調査を開始し、翌平成元年に栖吉町、さらに同2年には芹川町で続けた。

**村松町での地域調査の実践** 調査では、まず近世・近現代の資料を駆使して、組、地名・古道、水利と耕地等から村松村の概況を把握している。そして、中世に遡る重要な宗教施設・円融寺(真言宗)の復元をテーマとして、関連する中世史料、周辺の遺跡、寺歴と伝承、旧本堂と堂舎、檀家と大峰山信仰、年中行事などを明らかにしながら、地域の霊場をとらえた。

また、村の組や伝承、円融寺との関係、村絵図や地籍図の検討から近世の村、さらに中世の村の復元を試みている。村は円融寺の周囲にあったという地域の伝承を手がかりに、中世には寺北側の「北谷」と呼ばれる山間に村があり、近世の初めころに現在の平地に移

ったことを突き止めたのである。藤木自身も「中世の村は動いている、という私たちの感動は大きかった」と回顧した。その強い印象は、調査報告のタイトル『村は北谷にあった』につながっている。

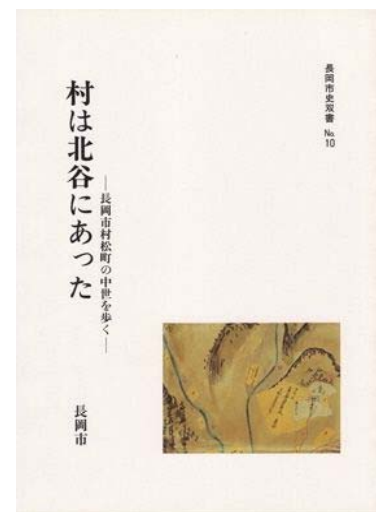
**藤木史学にみる地域調査の特色** 長岡市史の編さんで地域調査が企画された時期は、藤木の村落論(『戦国の作法』平凡社選書など)が展開されはじめた昭和60年代前半にちょうど重なる。藤木の拠り所は常に村や地域にあって、そこから歴史をみるという確固たるスタンスがあった。

藤木のフィールドワークによる調査手法は、新潟大学の恩師・井上鋭夫(1923～1974)の影響が極めて大きい。それは「現地・現物主義に徹するという歴史研究の方法」によるもので、藤木は井上の野外学的なアプローチの方法を受け継ぎながら、中世の史料が乏しい長岡の地で試行したといえよう。

また、村松町の調査にみるように、在地の信仰研究が重要な位置を占めていた。新潟大学の後輩・中野豊任(1939～1988)との関係から生み出された「信仰地域論」の実践であり、村々の生活のなかでも特に地域の霊場の復元を重視していたことが藤木流フィールドワークの特徴として評価されるのである。

長岡市史を含む市町村史に対する藤木の姿勢は、県史などとは異なり、住民にわかりやすい編さんにこだわった。藤木が発案し現在も発刊している「長岡市史双書」にも、後世に記録を残し続けようとする藤木の意味が込められている。氏の指導で培われた長岡市史の伝統は、長岡市歴史文書館の活動に受け継がれ、歴史資料の保存と活用が着実に行われている。

(長岡市立科学博物館長 小熊博史)



▲長岡市史双書No.10『村は北谷にあった—長岡市村松町の中世を歩く—』表紙

【主な参考文献】

- ・長岡市史双書No.10『村は北谷にあった』(平成2年)
- ・『長岡市史』資料編2(平成5年)
- ・小熊博史「藤木史学における地域調査の実践—長岡市史の事例を中心に」『村と民衆の戦国時代史 藤木久志の歴史学』(勉誠出版、令和4年)

《新たに公開した所蔵資料一覧》※保管場所の都合等で当日閲覧できない資料もあります。

- ・小林虎三郎関係資料（近代、43点）
- ・三島億二郎書簡（近代、1点）
- ・遠山夕雲家文書追加（近代・現代、7点）
- ・長谷川浩一収集資料追加（長岡市内マッチラベルコレクションほか）（現代、19点）
- ・長岡市内各地文書ほか追加
  - No.11 住乃井酒造「笑満寿」販売促進ポスター（近代、1点）
  - No.12 三島郡道半村 年貢割付状（近世、1点）
- ・長岡市内各地文書
  - No.1 古志郡十日町村大塚家文書（近世・近代、46点）
  - No.2 古志郡川袋村文書（近代、3点）
  - No.3 古志郡西野村佐藤家文書（近世・近代、13点）
  - No.4 古志郡犬茂島村関係文書（近世、2点）
  - No.5 古志郡上島村田畑帳・同定明村田畑検地帳（近世、2点）
  - No.6 古志郡撰田屋村川上家「魚御通」（近代、1点）
  - No.7 古志郡旧山古志村域文書（近代、2点）
  - No.8 三島郡円蔵寺村・曲田村切支端宗門御改下帳（近世、1点）
- ・長岡市内撮影写真（悠久山球場早慶戦）（現代、1点）
- ・刈羽郡中里村相野原岡家資料（近代、20点）

（令和6年2月末日現在）

4月2日(火)からの第6回常設展  
「新たに公開した所蔵資料」において  
左記のなかから数点を展示します  
この機会にぜひご覧ください

## 能登半島 地震

# 歴史資料を捨てないでください！

令和6年1月1日に発生した能登半島地震により被災された皆様にご心よりお見舞い申し上げます。

長岡市でも、県内最大となる震度6弱をはじめ各地で震度5以上の揺れを観測しました。20年前の中越大震災を思い出された方もいらっしゃるのではないでしょうか。

このような大きな災害のあとには、被災した建物の

片づけや、災害をきっかけに行われる身の回りの整理などで、歴史資料が廃棄されることがあります。一見、価値のない古い紙くずに見えたとしても、家や地域の歴史を今に伝えるかけがえのない資料です。もし以下のようなものを見つけた場合は、どうか処分しないでください。扱いに困った場合には、お気軽に当館までご相談ください。

### 捨てないで！

- 古文書・古そうな書類  
（くずし字で書かれた書きつけや帳面など）
- 古いノート・日記などの記録、手紙・はがき
- 古い本・昔の新聞・写真・アルバム
- 自治会・組合など団体の記録や資料
- 古いふすまや屏風・掛け軸 など

汚れたりカビが生えていたりしても  
元に戻せる可能性があります



▲中越大震災時に被災し、当館が受け入れた資料。  
現在は、長岡市災害復興文庫の一部になっています。

《編集後記》今号は、長岡市歴史文書館の名称で発行する初めての号になります。創刊から続く連載「長岡の碩学」は、第3回れきぶん講演会（令和5年11月11日）の講師・小熊博史長岡市立科学博物館長の寄稿により、市史編さん事業をご指導いただいた藤木久志先生の学恩を振り返りました。市史編さん室、文書資料室の業務と所蔵資料を受け継ぎ、まもなく開館1周年を迎える当館を末永くよろしく願い申し上げます。（歴史文書館長）

令和6年3月31日発行 編集・発行：長岡市歴史文書館 TEL 0258-36-7832 FAX 0258-37-3754  
〒940-0849 新潟県長岡市長倉西町458-7 E-mail: [rekibun@city.nagaoka.lg.jp](mailto:rekibun@city.nagaoka.lg.jp)